



「2008年3月
通期の連結予想数値
を達成すれば6期連
続で増収増益とな
る」と語るのは、三
酸化アンチモンの国
内最大手である日本
精鉱の岩山統社長。
単体のアンチモン

事業は絶好調だった一
年前の反動と、中国企
業との価格競争の影響
で減益見通し。しかし
「減益見通し。しかし
ない」と言うが、これ
から電子材料、自動車、
建設などの需要が落ち
ると当然、影響がある」

は国内最大手だが、
より競争力を高めて
さらに販売数量を増
やしたい」と意欲を
見せる。
まずは生産面で連
続操業への切り替え
を図り、生産コスト
を削減する。差別化
商品の開発、拡販も
従来通り実施してい
く。さらに「今の事
業環境として中国は
非常に重要」と指摘
する。さらに、中国企
業との合弁による第
2の生産拠点設立な
ども視野に入れてい
る。

6期連続増収 増益めざす

透明な状況
を憂慮す
る。
一方09
年度までの中期経営計
画については、連結ベ
ースで売上高を06年度
比41%増、経常利益50
%増、純利益70%増と
いう積極的な数値目標
を設定した。目標達成
のために、アンチモン

来年は北
京オリピックが開催
されることから、中国
を含め東南アジア市場
の地合いは強い」と話
す。しかし足元は米国
の信用力の低い個人
向け住宅融資(サブプ
ライムローン)問題が

(増)